

Title	ウヰリアム、ロバートソン、スミス
Sub Title	
Author	鈴木, 錠之助(Suzuki, Jonosuke)
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.2, No.1 (1922. 11) ,p.89- 99
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19221100-0089

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ウヰリアム、ロバートソン、スミス

ロバートソン、スミスは其の英國在世當時、牛津又は劔橋の兩大學に現はれたる最も權威ある教授の一人にして、造詣深き學者として知られしも一八九四年三月三十一日四十七歳にて他界せられた。スミスの名は、英國の公衆には一般に知られず唯纔かに十五年前蘇國にて中心人物となりし所の神學上の議論並に教會の審問に關係して記憶されてゐたるに過ぎなかつた。然るに、歐洲大陸及び諸東邦學者には廣くスミス英國に於ける第一流の學者として、又彼を識れる人々よりは東西の最も顯著なる碩學の一人として承認されてゐたのである。

スミスは一八四六年アバデンシャーに於けるドン流域の牧場靜かなる谷間の寒村に呱呱の聲を擧げた。父は教區ケエグに於ける蘇國自由教會

ウヰリアム、ロバートソン、スミス (鈴木)

の牧師にして非凡なる數學的才能を有つてゐた。夫の没後六年の壽を保てるその母は品性美はしき婦人にして七十六歳の高齡を以てみまかる迄至つて氣丈夫に、よくその聰明を保持してゐた。初等教育を父より受けたる後、スミスは直ちにアバデン大學に入り卒業後一八六五年先づボン大學にて、其後にはゲッチンゲン(一八六九年)に於て、自己の研究を續けたのである。年齒僅かに廿四歳にしてアバデンに於ける自由教會のカレッジ又は神學校にて東邦語の教授となり、二年後には舊約聖書改訂委員の一人に選出せられた。これ實に斯くも少壯の人にとりては異數なる名譽であつた。一八八一年には、スミスは初め大英百科全書第九版の編纂助手となり、次いで編輯長となつたのである。スミスは其の學識の多方面なると

(免)

殆んど凡ゆる問題に關する知識獲得の敏活なるその天分とに依り、其の地位には特に適當してををつた。彼を知れる人々は、此の大英百科全書の最初發刊せられたる百五十年前より現今に至る迄、此の事業に關係したる卓越せる人々の中に彼を伍するを皆首肯したのである。スミスは其の學問の範圍並びに此の編輯事業に對する資格に於て、縱令自己と匹敵する人々ありとするも、決して他に優越せられることはなかつた。彼は最も有能なる記者を見出すに非常なる苦心を費し、その大部分の題目を親しく監輯してゐた。第九版は從前の諸版に比し内容更に充實せるものであつた。最初の十二卷も整ひゐたりとはいへ、その後半に於ては更に卓越せる結果が得られたのである。是スミスの勤勉と批判の力に因るに他ならない。舊約聖書の問題に關する各條項は殆んど彼の寄稿に依らざるものなく、而かもそれ等は何れも其の百科全書中最善の部分に位するものであつた。

其の項目の中「バイブル」と題する論文は聖書の諸經典の歴史、年代、著者、及び基督教會の受容に關

する一般の見解を包含せるものなるが、是、彼の生涯の一轉期をなすものである。舊約聖書の各部の起原、殊にモーゼの五書に關せる彼の斷定は蘇國に於て爭議と不興を惹起し、其處には極めて少數の人種のみが、歐洲大陸の近代聖書學者に因つて達せられたる結論に注目したるに過ぎなかつた。其の項目は、簡明直截にして人を恐れず洵に大家の作であつた。その唱道せる諸見解は大部分スミス自身の研究に依るに非ずして他の多くの學者の作物に見出されるものであつたのである。且又其等の見解は、今や極端なりとは思惟されない。事實それ等は現今にては英國に於ける確なる正統派の多くの作家に依り、且又合衆國の恐らく少數の人々により承認されてゐるのである。されど一八七六年には是等の見解は新奇にして獨乙に留學せず又は、エワルト、クエーネン及びウエルハウゼン等の如き人々の流を汲まざる者にとりては驚く可きことであつた。蘇國自由教會は、是迄は正統派の嚴格を誇りとしてゐた。然るに少壯牧師の中には所謂新進の見解を擁抱せる幾多有爲の學者が

存在したりしも長老及中年の僧侶の大多數は古風の所謂靈感説(インスピレーション)の傳説を採用し、而して士師記の最後の章を除くの外五書は、モーゼの筆になると云ふことを固く信じてゐたのである。その人々の憤怒が、少壯教授スミスに對して燃やされたるは當然であつた。何となればスミスの説は其の人々の所信を根底より覆してしまつたからである。一八七六年に、アバアデインの長老會議の面前に於てスミスに對する審問手續が講せられ次で此の事件はアバアデインの宗教會議に懸けられ遂に自由教會の總會に附せられた。此の問題は百科全書に於てスミスにより公表せられたる他の項目によりて益々紛糾を來たし、前後五ヶ年に渉る爭議を惹き起した。然るにロバートソン、スミスは毫も屈するの色なくそれに反抗し、自己の意見の眞理なることのみならず、又それ等が信仰告白の信條、並びに長短兩種の問答書の中に表はれたるが如き長老派の基準と兩立す可き事を力説したのである。此の最後の場合に於ては第十六世紀並びに第十七世紀の僧侶等は特殊の靈感

説に信從せず、況んや聖書中の特殊の經典の著者に關し何等獨斷的の意見を懷抱してゐなかつたといふことを證明して成功した。基準は單に神々の言葉は經典の中に存すといふことを宣言するに過ぎない、而して是等の經典(勿論經外聖書に關する爭論を別とし)の神聖なる權威若しくは、著者或は製作年代に關しては、殆んど議論なかりしが故に、特に之等の問題に就いて取り扱はれてゐなかつたのである。信仰告白の信條に關してなされたる攻撃に對するスミスの辯護は申分なきものであつた。之がため遂に教會の信條の基準より相違せるとの理由に依り、彼を有罪となし、猶又それによりてスミスを教會の長老として遇するの不可なるを知り其の反對派の人々は退きてスミスの教義の所謂不定なる性質といふ理由に基き裁判上の決議よりは寧ろ行政上の投票に依りて、彼の僧侶の地位及び教授職をも奪はんするの企をなしたのであつた。

然るに暫時にして少壯並に平信徒間に於ける比較的保守派に屬せざる人々のスミスの周圍に集ま

るもの夥しきに至つた。蘇國に於ける一般思想及び生活の主潮は宗教改革以來教會内に流れてゐた現今に於て、即ち蘇國が急速に英化する際に於てすら神學上若しくは教會上の問題は英國に於て行はるゝより、より以上に廣汎にして銳利なる興味を惹くのである。故に蘇國に於ては四年間ロバート・スミス事件は自由教會の内外に於ける論議の主要なる題目であつた。此の際スミスに對する同情は、彼が自己の地位を辯護せる所の創意不屈及び勇氣によりて高められ其の論旨の力ありしは如何なる其の餘の會議に於ても卓越せる地位を占むるならんと思はるゝ底のものがあつた。若しスミスの議論にして缺點ありとせば、それは餘り辯證的の力強きに存するにありたるがため、その論敵は何れも議論の樞軸に入るに先だち論議の形式上に擊破せらるゝといふことに存したのである。然るにスミスは形式の事柄に於て、卓拔せる辯士たるのみならず、實質上の事柄に於ても、優秀なる神學者であつた。縱令、反對派の人々はスミスの椅子を奪ふには成功せりと雖も勝利は事實上、スミ

ス側に存してゐた。何となれば蘇國の長老派の基準は彼の懷抱せる意見を非難し得ざるのみならず、そが惹き起したる所のスミスの辯護と議論は、その見解を幾多思慮ある平信徒の知識に齎したるにより、かゝる人々をして各自の地位を再考せしむるに至つたからである。其等のある者はスミスと一致するの餘儀なきに立ち至らしめた。即ち結論に到達するための自己の能力を危ぶめる他の人々は少くとも係争中の該問題は信仰の主要事に關せず、歴史上及び哲學上の批判を経たる通常の經典に依りて決定されなければならないと考ふるやうになつた。斯くて此の審問は、恰も是より先き十八年前英國教會に於ける *Essays and Reviews* 事件の如く蘇國諸教會に對する一轉期となつたのである。仍つて以前禁せられたる所の意見も爾後自由に公表せらるゝに至り、従つて爾今蘇國長老教會に於て企てられたる所の殆んど凡ての教義上の訴訟は失敗に歸した。此の問題には幾多感情上の波瀾ありしも、其結果たるや、四十年前に夢想せるよりは更に大なる自由を獲得するに至つたのであ

る。最初自由教會の嚴格なる正統派の人々は、今や殆んど高地ハイルランドのみに限られたるが、宗教上の寛容は、無頓著又は不信仰に移り來るとの理由により主なる團體より退かんと考へた。されど多くの新らしき思想はその成長を續け、且つ又第十六世紀或は第十七世紀に於て起草されたる教義上の基準を弛緩せしむるやう僧侶並びに教會の平信徒を導きたる感情は、英國に於けるが如く蘇國に於ても普く擴大したのであつた。亞米利加に於ける長老諸教會及び加持力教會は今や大なる基督教團體に於て孤立し僅かに古來の嚴格なる教義を支持するに止まつた。羅馬教會すら是等の研究は主要問題を解決するの力であると云ふことを感じ始めた。事象を科學の歸結に適應せしめんとする方法は、(それは昔ガリレオが天文學の範圍に適應するを許されなかつた所であつた)今や一般に地質學及び生物學の方面に適應せらるゝが如く、凡ての諸教會は間もなく聖句を歴史及び言語學上の批判の結論に調和せしめた、これ斯かる批判は、その方法に於て、眞實科學的になつて來たからである。

スミスは、蘇國にて牧會するの望みなく、從つて、そこに何等關係を有たざるに至りしため、以來自己の天職を、研究と育英とに存するを感じたのであつた。一八八三年に於て空席となれるオックスフォードのアラビヤ語の講座の教授たる可き推薦に對して暫時躊躇したる後、彼は劍橋に落ち着かんと決心した。これより先、數年前スミスはアラビヤに旅行し、それによりて、アラビヤ語の文法の熟達に加へて、俗語の精通を持ち來したのである。スミスはアラビヤ文學の熱心なる研究者にしてヘブライ語よりもそれに多くの時間を捧げたのであつた。假令彼は己が身に受けたる攻撃を痛切に感じ、自己の解職の方法に就いてその心平かなりざりしも毫も意氣阻喪することなく、その強き自制力は、通例議論家の陷り易き弊害、即ち己が思想感情を當初自分等の意味せるもの以上に走らせ、それに依りてその人々の後援者の地位を危くするといふ誘惑に打ち勝ちたるによりてよく示されたのである。猶又スミスは、爭議に倦み、自己の將來に靜かなる勉學の前途を望み、講師の俸

給は年額纔かに百磅足すなるにも拘はらず満足してその地位に就いたのであつた。幸にもスミスはその天賦の才能が評價せらる可き好都合の地位に置かれたのである。クライストカレッヂの學長及びフエロー等は彼を名譽フエローに選出した。是れスミスの功績を認めたる賢明にして又奇特なる美事であつた何となればそれ等の人々は未だ彼を個人的に知ること少く、又スミスは従前その大學と何等の關係もなかつた故である。該クライストは小カレッヂの一なるがそのフエローの中には圭角を表はせる人々を有し教育の程度高きを以てよく知られてゐた。その校友名簿の中には、John Milton, Barrow, Ralph, Ralph Cudworth, や Charles Darwin 等の名が異彩を放つてゐる。スミスは此のカレッヂに餘生を送り社交を好み、多くの人々と食卓を共にしたため、カレッヂは彼あるを以て誇りとしてゐたのである。大學の司書の役が空席となるやスミスは撰ばれて其の任に就いた。彼の書籍の知識と愛好とは甚だその地位に對して適當してゐたりしも管理の煩瑣はスミスを苦しめたので

あつた。が偶々一八八九年に於て友人 William Wright の没するや彼はアラビヤ語の正教授となつた。Wright によりて置かれたる基礎の上に東邦語研究の一學派を建設せんとするスミスの努力は、秀逸なるシリヤ學者 Bensley の援助を得て成功を收め、幾多有爲の青年は笈を負ひてスミスの門を訪れたるも不幸にして一八九〇年病魔の襲ふ所となり最初は其の講義の時間を短縮し、後には中止するの餘儀なきに至つた。彼の晩年は頗る苦惱多かりしが剛毅なるスミスはよく病苦に堪え一言の不平もなかつたとの事である。

大英百科全書に關する事業、長期に渡りたる審問の煩累、講義に費したる時間及び晩年に於ける病弱とによりスミスの著作に用ひらる可き餘暇多からざりし爲め、彼の殘したる著書は彼の博學又は該博なる研究を適當に表示せるものといふ事は出来なかつた。その初期の著作、例せば The Old Testament in the Jewish Church 及び The Prophets of Israel は比較的世に知られてゐる。又その後表はれたる Kinship and Marriage in Early Arabia

及び *The Religion of the Semites* の二書は更に深奥にして専門的であり且つ又獨創的にして縦し友人にして *Primitive Marriage* の著者なる John F. MacI Lennan より スミスは大いに感化を受け又負ふ所ありたりと雖も此の種の題目を取り扱ひたる彼は斯學の先驅者と云ふ可きである。此のセム人の宗教といふ著書は、その組織整然として、その實質上の功績を評價するに足る少數の東邦學者の稱賛を博したるが不幸にしてそは完結を見るに至らなかつたのである。僅かに第一卷のみが公刊されたのである。これスミスは自己の議論を充分に展開するため蒐集せる諸材料を整理し以て完全なる系統を建つるに先だち運命の神は彼を奪つてしまつたからである。第二卷はイスラエル人を包含せるセム種族のアラビヤ系の原始宗教と舊約聖書の最初の經典に表はれたるが如きヘブライの宗教との關係を研究せんとの意圖なりしに、其の事ならざりしは學界に取りて太なる損失と云ふ可きである。スミスは異端視されたる項目を叙述して以來、其の見解に變革を來たし一八八八年頃には彼は最早

宗教には關係せざる可しとさへ云つた。スミスは敏感なる良心の所有主にして苟くも僧侶たるものは自己の確心を表現するに非ずんば教壇に立つ可きにあらずといふことを主張したのである。

スミスの著述に於て最も人を驚かすに足るものは彼が自在に其の材料をとり扱ふといふ點であつて。スミスの概括力は不斷の忍耐と注意深き微細なる研究とに基くものにして常に主要なる原理に注目して事實の中心を把持せんとするはその研究の眼目であつた。聰明と生來の不屈の勇氣により、讀者に確信を惹き起さしむるに足る豊富なる知識を供し、其の深き造詣は、何人も感歎する所であつた。かくてスミスは得易からざる大家なりとの感起さしめた。古來のセム種族のアラビヤ系に屬する言語及び文學の諸方面に關しては、彼の知識は精確にして廣汎なるものであつた。スミスが大學者等に充分なる敬意を表したることは *Nöldeke*, *Wellhausen*, 及び *Lagarde* 等に捧げたる稱賛の辭を見ても知ることが出来る。スミスは歴史及び形而學の範圍並びに言語學のそれに於ける非

科學的の著作に最も嚴重なる批判を下した。即ち似而非學者の無批判なる假定もしくは散漫なる臆説を忽ちにして曝露したのである。スミスは大英百科辭典の事業を終りたる後は Dictionary of European Impostors を作るかも知れぬと言明してゐたといふ。東邦學は彼が名聲を博するを得たる多くの題目の一つに過ぎない。スミスの數學的才能は異常なるものにして僅か二學期の間ニエディンボロー大學に於て助教授として博物學を擔當して顯著なる成功を收めたといふことである。又スミスは多くの他の實際上の技術、例は航海術の如きに迄通曉して居り嘗て、紅海航行中その船舶の羅針盤に狂を生じたる際、それを修理して同船の人々を一驚せしめた。形而上學及び神學古代及び近世史の各方面に於てもスミスは普く精通してゐた。實に會話に於て彼が光明を投じ得ざるが如き題目は一として存在しなかつたのである何となればスミスの知識の獲得は迅速と精確とを以て顯はれ、絶えず自己の知識を擴大せんと努力してゐたからである。

スミスが華々しき成功を收め得ざるが如きものはその實際生活に於て見出すことは出来なかつたのであるが知識に對する熱情は彼をして學者生活を選ばしめ斯くて文學上の名聲を得るが如き慾望を打ち消してしまつたかの如く思はれる。

抑々學問は、通常持ち運ぶには重過ぎるものと思はれ、そは人々をして重苦しき氣分となすか若しくは街學的に至らしむるものである。然るにスミスに於ては事情全く是と異つて居た。何とならに彼の博學なる何事にも興味を有し常に愉快な氣分と敏感とを以てよく談じ重大なる問題にも且又輕快なるそれにも等しく參加したからである。スミスは議論好きであり、縱令後には同じ題目に復歸するとはいへ、先づ其の前提を縱横に是非するの傾向があつた。スミスと論ずる時には其の友人は自己の凡ゆる知識をもて防戦に勉むるのであつた。予 (Bryce) は Riviera 河畔の Alasio の別荘に於て嘗てスミスと五週間を愉快に暮したるが、此の間スミスの論議せざるものは何ものもなかつたといふことを觀察した。此の爭論的の傾向ありし

にも拘はらずスミスと共にあることは甚だ刺戟多くして少しも不愉快の感を與へなかつた。といふのは彼は單に自己の敵手を破らうとはせずして只管、その事の眞理に到達せんとし、假令積極的なりとはいへスミスの態度は少しも辛辣又は自負の點がなかつたからである。人はスミスと會談する程知識上裨益すること多くして此上なき愉快はなかつた。こは豊富なる彼の思想及び知識とその觸れたる各題目に光を投ずる熱心の然らしむる所以のものであつた。予は嘗てスミスと史家グリーンを招待したるが此の兩人は一見舊知の如く、その何れが巨燈なるか容易に云ふを許さないものである。スミスは該博にして精密なる知識と強き推理の力を有したるが、グリーンは輕妙、廣汎にして獨創的であつた。その風丰はスミスはグリーンに似て小さいく寧ろ矮小であつた。その濃褐色の眼は爛々として鋭く、早口にしてその笑ふや如何にも愉快氣に見えた。何となればスミスは輕妙なるユーモアの感じを有し事物をあるがまゝに享樂するの力があつたからである。その理智の型は低地のチ

ユウトン種のスコット人を想起せしめた。されど外貌並びに氣質上にては彼はむしろ高地のスコット種のケルトであつて熱情と華美と盡きざる所の快活とがありたる故、スミスの住ふ所、即ちアバアデイン、エデインボロー、ケンブリッヂに於て尊崇の的となつた。散歩に際しては其の敏速と獨特の歩により人は町の遠方より直ちにスミスなることを物色する事が出来たのである。

一體、人は個人的にアトラクティブであると益々餘の人々と相異せるにより一層アトラクティブになり、そしてその者は一團の中心となるものである。此の事實は正しくスミスに當嵌まる。彼の多くの友人はその會合するや話柄が常にスミスに及ぶと云ふ程彼から深い感銘を得てゐたのである。而してその多くの友誼は此の一人の人物を相互に識つてゐるといふ事に基いてゐた。實にスミスの柔和にして且つ氣高く而かも質朴なるその品性は彼を知らんとして來たれる人々に非常なる感化を及ぼしたのである。スミスの如く靜かに勉強生活を送れる人にして斯くも多くの人々に尊敬と愛情

とを惹起せし者は稀であり又諸教授の中にて彼程その學生に刺戟と愛着の力を有したるは異とする所である。スミスは眞理の研究の事に劣らず育英の業を好み而して諸友人に對し最も眞實をつくし且又同情があつた。その生存中に於ては眞に匹儔を見ざる人氣を有し其の世を去るや再び得られざる人物であつたと云ふ感を深くした。

教會の法廷に於て、その反對者に面して示したる勇氣に就いては既に述べたる所なるも、その同じ勇氣は其の晩年に於ける烈げしき病苦の試験に於ても依然として存じてゐた。彼が一命を奪はれたる病氣の性質は、一八九二年の九月初めて醫師により明らかにせられた。其の際東邦學者國際大會の開催ありてスミスはセムの部門を、司會し會議を進めて居たのであるが恰も同日の午後此の會議を記念するの宴が開かれた。醫師がその病原を告げたるにスミスは單にそは阿兄の死因に同じであると同病にて數年前物故したのであつた。斯くて彼は直ちに宴會に列し容色毫も平素と異なる所なく其夕

の賓客中最も快活であつたといふ事を見ても彼が如何に生來の勇氣を以て病軀に打ち克つたと云ふ事を知り得るであらう。

卓越せる人々が時代を異にして生れ出でたならば、その人々の運命は如何に變つてゐたかといふことを想像して見るも亦一興である。

故にもし大僧正Daishoninがエドワード六世又はエリザベスの下にありとせば、カンタベリーの僧正Cranmerが爲になつたであらう。テイトは僧正Taitが爲にせしよりは猶慎重に更に確實に改革の業を果したであらう。恐らく彼はParker又は Whitgift がなせしよりはより寛大なる心情を示したであらう。監督 Manning が若し第十六世紀に生れたと假定すれば恐らく耶蘇會徒の司教となり舊教界の政策を密かに統御してゐたであらう。諸、若しも本論のロバートソン、スミスが中世の大學時代に生れ出でたとせばダンテの所謂勇敢なる辯證家の如く巴里大學に於て煩はしき三段論法を用ひて得々たる眞理の獲得者となつたかも知れず或は又運命の神が更に二世紀遅れて伊太利の高揚時に於けるルネ

サンスの學者の間に伍せしめたとすればスミスの
學問の名聲は殆んど歐洲を壓したかも知れないの
である。(ブライス卿の現代傳記研究に依る)

鈴木錠之助